



平成27年10月26日、気象業務支援センターは緊急地震速報利用者協議会との共同事業として高知県立県民文化ホール（グリーンホール）を会場に、高知地方気象台、高知県、高知市と共催し「11.5 津波防災の日」プレイベント緊急地震速報講演会を開催しました。

司会進行は、KUTV テレビ高知の竹村志麻様にお願ひし、高知地方気象台 荒谷台長、高知県 岩城副知事の主催者挨拶により 14 時に開演しました。また、今回の講演会では高知市障害福祉課のご協力により高知県登録手話通訳者の手話通訳が行われました。

講演②は、愛知工業大学工学部教授 横田 崇氏から「地震・津波災害か生命をまもるために」と題して、南海トラフ沿いでは巨大地震が概ね 100 年から 150 年間隔で繰り返し発生しているということ、また南海トラフの巨大地震による高知市付近の津波による浸水シミュレーションを示し、高知市内のほとんどで津波被害が起こるということがアニメーションで示されました。また、西日本内陸の地震についても考えておく必要があること、自らの命を守るには自然現象のメカニズムを知って目頃からの備えと訓練が最も重要であると話されました。

講演③は、高知地方気象台 荒谷 博台長から気象庁は平成 19 年 10 月より緊急地震速報の提供を開始し情報によって安全な対応行動や事前に機器制御を行い危機回避、地震災害の防止・軽減に活用されてきた。一方で 3.11 東北地方太平洋沖地震以後、緊急地震速報の課題への対処が求められている。高知県でこれまで緊急地震速報が発表されたのは 3 回だけである。南海トラフ地震が想定される県内では緊急地震速報活用の一層の推進とともに見聞きした際には、身を守る安全行動が適切に行えることが必要であると話されました。

1



講演会に先立ち、グリーンホールロビーにて専用受信端末の展示や受信相談等を行うことを計画し(株)アース・キャスト、アールシーソリューション(株)、(株)ANET、(株)センチュリー、明星電気(株)の5会員(五十音順)が参加され各社機器はもちろんのこと、パネル展示、リーフレット配布など実施しました。ご協力いただいた会員の皆様に感謝申し上げます。

「11.5 津波防災の日」プレイベントとして講演会を開催し、副題のとおり関心が高く、多くの報道関係者の事前参加申し込みとは別に、当日4社からの講演会取材が行われ、テレビ報道等もあり防災意識の向上、啓発の目的が果たせたと考えております。今後も、さらなる防災意識の浸透の一助となるよう、活動を進めて参ります。

本講演会は、緊急地震速報利用者協議会の賛助会員に加入いただいた高知県、高知市は元より、荒谷台長をはじめ高知地方気象台スタッフの皆様の事前準備から当日の設営・運営など多大なご尽力により成功裏に終了しました。改めて感謝と御礼を申し上げます。